

第41回

社会言語科学学会大会

Program of the 41st Biannual Meeting of the Japanese Association of Sociolinguistic Sciences



日時 2018.3.10(土)~11(日)
受付開始:10日(土) 9:30~/11日(日)9:00~

場所 東洋大学 白山キャンパス
〒112-8606 東京都文京区白山5-28-20

交通 (1)都営地下鉄三田線「白山」駅:A3出口から「正門・南門」徒歩5分/A1出口から「西門」徒歩5分 (2)都営地下鉄三田線「千石」駅:A1出口から「正門・西門」徒歩7分 (3)東京メトロ南北線「本駒込」駅:1番出口から「正門」徒歩5分 (4)東京メトロ千代田線「千駄木」駅:1番出口から「正門」徒歩15分
お問い合わせ先 社会言語科学学会研究大会委員会 E-mail: jass-desk@bunken.co.jp http://www.jass.ne.jp/another/?page_id=2

参加費 (大会論文集1冊込)
会 員:3,000円/非 会 員:5,000円
学生会員:2,000円/学生非会員:4,000円

3月10日(土)

9:30	受付開始〔6号館2F 踊り場〕			
10:00	開会			
10:00-10:30	<セッション1> 〔6号館2F 6201号室〕 司会:杉浦 秀行(摂南大学) マクロ・コンテクストはいかにミクロな相互行為に関連づけられるか ―社会記号論系言語人類学の立場からの考察― 李 址遠(早稲田大学)	<セッション2> 〔6号館2F 6202号室〕 司会:伊藤 翼斗(京都工芸繊維大学) 相互行為資源としての「あの一」および「その一」 高木 智世(筑波大学), 森田 笑(シンガポール国立大学)	<セッション3> 〔6号館2F 6203号室〕 司会:平田 未季(秋田大学) バブアニューギニアのアメレ語における呼称 野瀬 昌彦(滋賀大学)	<セッション4> 〔6号館2F 6204号室〕 司会:船橋 瑞貴(群馬大学) ライティングチュートリアルにおける沈黙の談話分析 葛岡 裕美(東京大学), 藤井 聖子(東京大学), 藤井 美咲(東京大学)
10:35-11:05	落語におけるマクラから本題への遷移ストラテジー 矢島 のは菜(立命館大学), 岡本 雅史(立命館大学)	小学校英語教育の授業内相互行為に関する質的研究 大塚 清高(明治大学)	話し手はどのように疑似独話を使うのか ―談話進行場面に見られる「なんか」の使用から― 杉崎 美生(日本女子大学), 鹿野 浩子(自治医科大学)	問題解決に非協力的な相手を説得する ―英語母語話者と学習者の話しことばコーパスの分析― 山本 綾(昭和女子大学)
11:10-11:40	基本的スピーチレベルの切り替えに関する日韓対照研究 ―大学生初対面場面をもとに― 金 兌妍(九州大学)	相互行為として目線の高さをあわせるといこと ―子供を含む多人数会話でのしゃがみ込み/中腰の使い分けに着目して― 牧野 遼作(早稲田大学), 坊農 真弓(国立情報学研究所/総合研究大学院大学)	語用論的選好からみた日本語文法 ―名詞修飾「NのN」を中心として― 中村 真衣佳(北海道大学)	日本の職場における外国籍社員の言語選択 ―日本語の言語機能とは― ケッチャム 千香子(上智大学)
11:45-12:15	大阪と東京の雑談におけるあいづちの出現環境の異なり ―節境界を手掛かりとして― 太田 有紀(東北大学)	相互行為の資源としての繰り返し ―「からかい」を達成する場合― 呉 青青(九州大学)	日本語の連体修飾構造からみた際立ちの社会性 ―社会的要因を取り入れた認知言語学のアプローチ― 小松原 哲太(立命館大学)	リアルタイムアノテーションによる小学校におけるプレゼンテーション相互評価 森 篤嗣(京都外国語大学), 山口 昌也(国立国語研究所)
12:20-12:50	談話実験における言語行動と非言語行動の相関関係 ―ビッグ・ストーリー確認作業を事例に― 砂川 千穂(日本学術振興会/国立情報学研究所), 秦 かおり(大阪大学), 菊地 浩平(総合研究大学院大学)	説明からの脱線と復帰 ―化粧の行程を実践しながら説明する― 天谷 晴香(国立国語研究所)	植物の描写におけるメタファーの役割 ―ハリデーの枠組みから― 田丸 歩実(京都大学)	
13:50-15:20	20周年記念シンポジウム「社会言語科学学会20年の軌跡とこれから ―徳川賞受賞者からの提言―」 〔5号館 井上円了ホール〕 【企画・司会】小磯 花絵(国立国語研究所), 田中 ゆかり(日本大学) 「言語研究者としての社会への貢献 ―学問の継承・展開と新たな発展―」 中東 靖恵(岡山大学) 「『多言語使用』から『境界』の言語学へ―『国際』と『国内』のはざまで―」 山下 里香(関東学院大学) 「身体に刻みこまれた二つのことばの記憶 ―手話・触手話・指点字からみた日本語―」 坊農 真弓(国立情報学研究所/総合研究大学院大学)			
15:35-16:35	【一般公開】20周年記念講演 〔5号館 井上円了ホール〕 "Interactional foundations of language: The interaction engine hypothesis" Stephen C. Levinson(マックスプランク心理言語学研究所/ラドバウド大学名誉教授)			
16:50-18:05	【一般公開】20周年記念パネル・ディスカッション 〔5号館 井上円了ホール〕 【ディスカッサント】片岡 邦好(愛知大学), 片桐 恭弘(公立はこだて未来大学), 高田 明(京都大学) 【司会】平賀 正子(社会言語科学学会会長/立教大学名誉教授) 【企画】伝 康晴(千葉大学), 村田 和代(龍谷大学)			
18:40-	懇親会〔2号館16F スカイホール〕			

研究発表(口頭発表)

20周年記念企画

ポスター発表

3月11日(日)

9:00-	受付開始〔6号館2F 踊り場〕			
09:30-10:45	<セッション1> 〔6号館3F廊下〕 司会:山本 真理(関西学院大学) P-01 読み手が共通の認識を得るための情報とその表現 ―小説のタイトルと帯から読み手が取得する情報― 加藤 祥(国立国語研究所), 浅原 正幸(国立国語研究所)			計15件
10:45-12:00	<セッション2> 〔6号館3F廊下〕 P-16 緩叙法の機能と役割について 加藤 恵梨(朝日大学)			計15件
12:00-12:55	JASSカフェ〔6号館2F 6206号室〕			
13:00-13:05	開催校ご挨拶〔6号館2F 6210号室〕 矢口 悦子(東洋大学文学部学部長)			
13:05-13:15	会長挨拶、大会発表賞について〔6号館2F 6210号室〕			
13:15-14:20	徳川宗賢賞授賞式および記念講演〔6号館2F 6210号室〕 優秀賞:坪井 睦子(立教大学)「メタ・コミュニケーションとしてのメディア翻訳―国際ニュースにおける引用と翻訳行為の不可視性―」 萌芽賞:宮崎 あゆみ(お茶の水女子大学)「日本の中学生のジェンダー―人称を巡るメタ語用的解釈―変容するジェンダー言語イデオロギー―」			

14:30-15:00	<セッション5> 〔6号館2F 6202号室〕 司会:嶋 ちはる(国際教養大学) 日本語と韓国語における依頼表現のバリエーションの多様化の過程 辻岡 咲子(関西大学)	<セッション6> 〔6号館2F 6203号室〕 司会:小川 俊輔(県立広島大学) 言語政策としての経済連携協定 ―エスノグラフィーの可能性― 大友 瑠璃子(北海道大学)	<セッション7> 〔6号館2F 6204号室〕 司会:脇 忠幸(福山大学) やりもらいの距離感と家族の変容 ―育児体験ナラティブの分析から― 岡本 多香子(日本女子大学), 井出 里咲子(筑波大学)
15:05-15:35	“Tourism linguistics”のアプローチ ―観光パンフレットの日中英3言語対照から― 一木 有海(慶應義塾大学)	複言語国家ブータン王国における言語認識 ―複言語話者の母語認識と自己認識― 佐藤 美奈子(日本大学)	語りにみる外国人妻のアイデンティとその表出 ―在日モンゴル人女性を事例に― Oyunaa Nomin(大阪大学)
15:40-16:10	韓国語における短縮パターンの特徴 ―ドラマのタイトルを中心に― 金 廷珉(麗澤大学), 秋葉 多佳子(韓国外国語大学)	国会では「手話」がどのように論じられてきたのか ―「国会会議録検索システム検索用API」を利用した経年的な考察― 岡田 祥平(新潟大学)	日本語のナラティブにおける評価構造の特徴と機能について 陳 真(広島大学)

研究発表(口頭発表)